

東京大学大学院情報理工学系研究科  
知的情報処理英語プログラム

別表

1. 授業科目

科目種別	授業科目名等	単位数	履修方法	備考
A (共通)	工学系・情報理工学系研究科日本語教育部会による講義※	1～10		留学生のみ 2 単位以上必修 (日本人は国際交流実績ポイント)
	研究倫理	0.5	必修	各自の専攻・課程に対応するもの
	コンピュータ科学修士輪講Ⅰ・Ⅱ	各 1		
	コンピュータ科学修士特別研究Ⅰ・Ⅱ	各 6		
	実践英語対話表現演習	1		
	又は			
	数理情報学輪講Ⅰ・Ⅱ	各 2		
	数理情報学修士特別研究Ⅰ・Ⅱ	各 6		
	又は			
	システム情報学輪講Ⅰ・Ⅱ	各 2		
	システム情報学修士特別研究Ⅰ・Ⅱ	各 6		
	又は			
	電子情報学修士輪講Ⅰ・Ⅱ	各 2		
	電子情報学修士特別研究Ⅰ・Ⅱ	各 5		
	又は			
	知能機械情報学修士輪講Ⅰ・Ⅱ	各 2		
	知能機械情報学修士特別研究Ⅰ・Ⅱ	各 6		
	又は			
	創造情報学修士輪講	2		
	創造情報学修士演習	2		
	創造情報学プロジェクト実践修士研究	10		
	実践英語演習	1		
	又は			
	コンピュータ科学博士輪講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各 1		
	コンピュータ科学博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各 4		
	又は			
	数理情報学博士輪講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各 4		
		各 4		

	数理情報学博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 又は システム情報学博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 又は 電子情報学博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 又は 知能機械情報学博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 又は 創造情報学博士輪講 創造情報学プロジェクト実践博士研究 実践英語特別演習	各 4  2 12 1		
B (基盤)	論文構成法 脳科学特論Ⅰ 脳科学特論Ⅱ 知能機械情報学特別講義Ⅱ 知能機械情報学特別演習 Advanced Lectures on the C++ Programming Language Functional Programming Language with Clean – Presentations and Practices 機械学習手順技法 機械学習入門	2 2 2 2 2 1 1 2 2	選 択 必 修 (修士)	修士は B～D から 12 単位 以上
C (コア)	並列数値計算論 応用コンピュータ・グラフィックス論 映像メディア学 近似・オンラインアルゴリズムとその応用 インターネット工学 逆問題特論 先端アルゴリズム論 知的視覚インタラクション 量子計算論 離散情報論 オペレーティングシステム特論 ネットワーク最適化 リモートセンシング画像解析 並列分散プログラミング カスタムコンピューティング特論 Efficient Search Methods in Artificial Intelligence	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選 択 必 修	修士が C か ら 6 単位以 上、博士が C ～D から 2 単 位以上
D (発展)	計算科学アライアンス特別講義Ⅰ 計算科学アライアンス特別講義Ⅱ オンライン国際研究インターンシップ	2 2 2	選 択 必 修 (修士)	修士は B～D から合計 12 単位以上

なお、B, C, D の科目は情報理工学系研究科の講義の更新にあわせて更新されるので、ホームページで常に最

新の情報を確認すること。

※ 2021 年 度 に 開 講 し た 日 本 語 教 室 の 講 義 リ ス ト :  
<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/programs/about/overview/>

## 2. 国際交流実績ポイント

留学生の日本語講義に代わり、日本人学生は国際交流実績ポイントが必要である。

### ・海外派遣・学会参加等

海外滞在宿泊日数（機中泊を含まない）1泊につき1ポイント。ただし用務のない日（前後泊や、研究室滞在での土日など）はポイントに含まない。

E-ticket のコピー、および、用務内容が分かる書類（学会ウェブページ、滞在先との連絡メールコピー等）を電子メールで情報理工学系研究科国際交流室に送付すること。

海外で行われた国際会議での口頭発表は2ポイントを追加する。学会プログラムを添付のこと。ただし、ポスター発表や展示は含まない。

なお、新型コロナウイルスの影響で海外に渡航することが困難であるため、令和4年度にはオンラインで行われた国際会議での口頭発表にも2ポイントを追加し、オンラインで開催される国際会議等に参加する場合も1日あたり1ポイントを追加する。

### ・研究科主催の留学生交流行事参加

参加1回につき1ポイント。

行事参加の当日、所定の用紙を用いて、情報理工学国際センター教員または情報理工学系研究科国際交流室事務員からサインを得たうえで、情報理工学系研究科国際交流室に提出すること。